

味噌汁の摂取により β -D-グルカンが偽陽性になった一例

◎光野 典子¹⁾、喜志 隆之¹⁾、深町 成未¹⁾、野村 仁志¹⁾、下田 恵子¹⁾
地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター¹⁾

【はじめに】血中 β -D-グルカン（以下 β DG）は深在性真菌症の有用な補助診断法として汎用されているが、種々の要因により偽陽性になることが知られている。今回、味噌汁の摂取により β DG が偽陽性になった症例を経験したので報告する。【症例】9歳女児。補食として市販のカップ味噌汁（赤味噌）をほぼ毎日、多いときは1日2回摂取していた。【経過】急性リンパ性白血病に対し化学療法、感染予防に抗菌薬（CMZ）と抗真菌薬（MCFG）を投与中、発熱性好中球減少症を発症した。WBC $0.24 \times 10^9/L$ （好中球 $20/\mu L$ ）、CRP 4.64 mg/dL 、 β DG が 15.2 pg/mL と高値であったため、MCFGを治療量に変更し抗菌薬（TEIC、MEPM）を追加した。造血回復にやや遅れて解熱したが β DG は 22.3 pg/mL とさらに上昇したため、追加検査としてアスペルギルス抗原とカンジダ抗原検査、培養検査を実施したがすべて陰性であった。5日後に β DG は 41.4 pg/mL とさらに上昇したため、抗真菌薬をCPFGに変更した。感染巣検索のため造影CTを実施、右慢性副鼻腔炎を認めたため内視鏡下副鼻腔手術を施行したが、視診および培養、

病理検査で真菌感染を疑う所見はなかった。CPFGの投与を継続したが、 β DG は 15 pg/mL 以上で経過した。その後、上腹部痛が出現しAmy高値と造影CTから薬剤性膵炎と診断、全投薬を中止し絶食と輸液で保存的加療を実施したところ、絶食前に 30.0 pg/mL であった β DG は絶食4日目に $<6.0 \text{ pg/mL}$ となった。CPFGを中止、飲水とカップ味噌汁、白飯のみを再開したところ、 β DG は 6.5 pg/mL と軽度上昇したため、 β DG の上昇は味噌汁の摂取が原因と考えられた。その後、外来で急性リンパ性白血病の治療を継続中であるが、1年以上にわたり β DG は 15 pg/mL 以上で経過している。【考察】 β DG 偽陽性は血液製剤や血液浄化療法、ある種の抗菌薬やマイタケ類の摂取など様々な要因が知られているが、今回日常的に摂取する味噌汁により偽陽性になった症例を経験した。味噌は β DG を細胞壁構成成分にもつ *Aspergillus oryzae* などの麹が使用され β DG が多量に含まれるため、摂取により偽陽性になる可能性があることを認識する必要がある。

連絡先：06-6929-1221